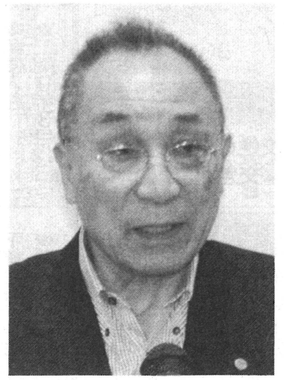
川村建設 川村建設平成会 2026年度安全衛生大会を開催

安全意識高め、災害防止を誓う

川村建設（さいたま市、川村郁夫社長）および川村建設平成会（岩﨑由幸会長、岩﨑木工所社長）は10月23日、2026年度安全衛生大会を開催した。大会には協力業者55社・62名、社員25名の合わせて87名が参加。優秀協力業者3社と優秀職長3人を表彰したほか、安全講話や安全衛生動画の上映を実施。参加者は安全の誓いを唱和し、安全で働きやすい職場環境の実現に向けて決意を新たにした。


川村社長

大会は、飯浜孝治所長の開会の辞で始まった。はじめに、笠井竜平大会委員長は、建設業を取り巻く環境について「働き方改革や従事者の高齢化、担い手の確保・育成に加え、自然災害の多発や熱中症対策、インフラの老朽化など、さまざまな課題に直面している」と指摘。その上で建設業の労働災害は長期的には減少傾向にあるものの、死亡災害は依然として多い状況にあると言及。関係者が一体となって労働災害防止対策を推進するとともに、働き方改革による職場環境の改善やDXによる安全性・生産性の向上を進め、将来の担い手が安全・安心に活躍できる魅力ある産業にしていく必要性を強調した。また「安全声かけ運動 埼玉」をはじめ、各種災害防止対策の積極的な推進を呼び掛け、建設業に従事する全ての世代が希望と誇りを持って働ける職場環境の実現を求めた。続いて、平成会の岩﨑会長は、日頃の活動と各現場の安全衛生管理への協力に感謝を述べた上で「建設業は社会資本の整備や地域の暮らしを支える重要な役割を担っている。一方で、常に危険と隣り合わせの現場で仕事をしていることを忘れてはならない」と指摘。何よりも安全を優先し、全ての作業は安全の上に成り立っていることを認識する必要があると強調した。

さらに、作業員の高齢化や猛暑、豪雨などへの対応も重要になっているとし、安全管理は事故防止に加え、健康管理や働きやすい職場づくり、防災体制の強化まで取り組む必要があると説明。本大会が安全意識を改めて見つめ直し、無事故・無災害の職場づくりに向けて決意を新たにする機会となることを願った。

川村社長は、大会への出席に謝意を示すとともに「日頃から同社の工事を支える協力会社に対し、皆さんの知恵と協力によって良い仕事を重ね、成果につなげることができていると感謝。今後も共に知恵を絞り、汗を流しながら取り組んでいきたい」と述べた。

建設業を取り巻く状況については「公共工事と民間工事の双方が、物価上昇や人手不足などの影響を受けている」と説明。公共工事では工事費の上昇に伴い、入札の取りやめや不調が見られる状況に触れた。また、民間工事でも顧客が建設費を踏まえて建物の構造や規模を検討するようになっているほか、再開発事業においても価格面の課題を抱えているとの認識を示した。

その上で「厳しい環境の中で事業を続けていくためには、頭と体を使い、皆さんと一緒にさまざまなことを考えながら取り組んでいくことが必要だ」と述べ、協力会社との連携を大切にしながら課題に対応していく考えを示した。

安全については「天災は忘れたころにやって来る」という言葉に触れ、近年は地震や台風、豪雨などの自然災害が頻発している一方で、「労働災害は忘れたころにやって来る」と指摘。過去の災害を教訓に、安全衛生動画「見て感じて危険回避～もしも我が身であったら～」を上映し、参加者は安全への意識を高めた。

その後、工事部の狩野遼太郎主任が安全の誓いを先導。墜落・転落災害の撲滅をはじめとする三大災害の防止対策の徹底、リスクアセスメントの確実な実施・定着、メンタルヘルス対策と職場環境改善の推進を重点に、安全で働きやすい職場環境の実現を誓った。

最後は工事部の吉村哲也副部長が閉会の辞を述べ、大会を締めくくった。

◆安全衛生大会 表彰者◆

優秀協力業者の部

桜田電設㈱	代表取締役社長	谷口榮正
㈱サクマ	代表取締役	佐久間常介
㈱本田組	代表取締役	本田浩一

優秀職長の部

日興設備工業㈱	小林正紀
㈱クルーズ	村上和之
協和建材㈱	本多浩司

優秀協力業者3社、優秀職長3人を表彰

この後、優秀協力業者3社と優秀職長3人を表彰（別掲）。受賞者を代表し、桜田電設の谷口榮正社長が謝辞を述べ、多くの協力業者の中から表彰を受けたことに感謝の意を示すとともに「日頃から、どんなささいなことでも確認を徹底してきたことが今回の受賞につながったと振り返り、本大会を契機に改めて安全意識を高め、施工に携わっていきたい」と決意を述べた。

安全講話では、さいたま労働基準監督署安全衛生課の相原和広課長が、労働災害の発生状況や労働安全衛生法等の改正、建設業における災害防止などについて講話した。併せて、安全衛生動画「見て感じて危険回避～もしも我が身であったら～」を上映し、参加者は安全への意識を高めた。

【安全の誓い】

県内における建設業の労働災害は関係者の不断の努力により、長期的には減少傾向にあります。

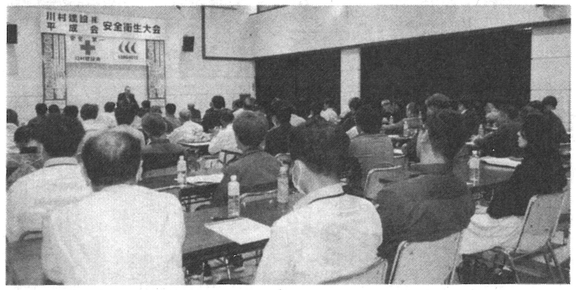
しかしながら、ヒューマンエラーを要因とした「墜落・転落災害」や「はさまれ・巻き込まれ災害」などによる死亡・休業災害は依然として多く発生している状況にあります。

また、近年では職業性疾病である「熱中症」を始めとした健康障害などが重大な問題となっております。

このため「安全声かけ運動　埼玉」をはじめ、各種災害防止対策を積極的に推進し、リスクアセスメントの確実な実施を通じて、安全衛生管理の充実を図り、建設業に従事する者が労働災害に遭うことがないよう、

1.「墜落・転落災害」の撲滅をはじめとする「三大災害」の防止対策の徹底
2. リスクアセスメントの確実な実施・定着
3. メンタルヘルス対策と職場環境改善の推進

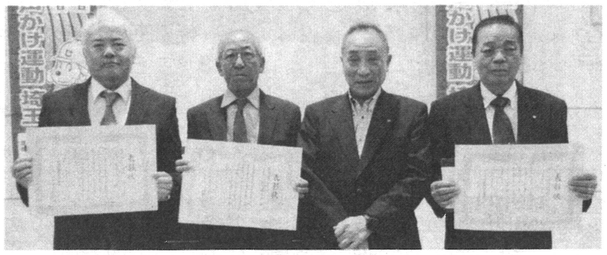
を重点として、安全衛生活動に取り組み、安全で働きやすい職場環境を実現することを誓います。



参加者全員で改めて安全意識を高めた

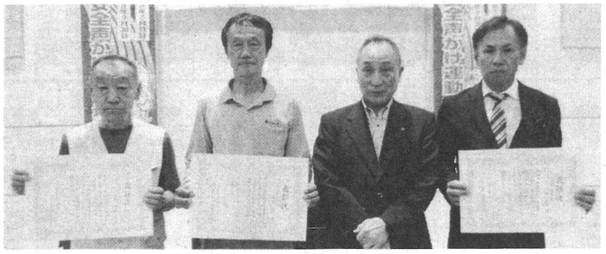

岩﨑会長


笠井大会委員長



優秀協力業者表彰


相原課長



優秀職長表彰